

原発被災者支援報告書

2021年2月26日 Café de FUKUSHIMA 石川和宏

* 報告期間:2月17日(水)~20日(土) (2021年第2次)

【1】結果の概要

訪問先:

◇支援のイベント(交流会):被災者避難先住民組織1ヶ所

2月18日(木) 飯館村同窓会(28) 飯館村民 南相馬市

◇開催打合せ・支援物資お届け:4ヶ所 18日(木):聖愛こども園 北原復興住宅 大町災害公営住宅
南相馬市萱浜地区

結果:

・2月に会った被災者・避難者 32名、総参加者 34名

・集計開始(2015年1月)以来 402ヶ所 被災者・避難者 9,081名、支援者などを含めた総数
10,134名

先月は、コロナ感染者急増の最中でしたが、今回は20日(土)の地震の直後です。出会った多くの方にとって、原発被災+コロナ禍+大地震という何ともお慰めの言葉に窮する事態でした。

常磐道(高速)は崖崩れで通れず、サマリタンハウスのある山元町は断水でしたが、予定通りに進めることが出来ました。

支援を支援してくださっている皆さんから今回の地震のことでたくさんの電話やメールを頂きました。地震の前に計画していたことは、全て予定通りに行くことが叶いました。有り難うございました。

今回支援に協力してくださった方々

日本キリスト改革派教会中部中会(食料品費) 「温もり届け隊(岩見沢市)」手編のクッションと靴下カバー) 名古屋岩の上教会(手作りのケーキとクッキー) フードバンクかながわ(食料品) かながわ生き活き市民基金(食料品費) シンガポールの友人(手書きカード) ご近所の方(食器)

皆さん、ありがとうございました。

【2】2月18日 飯館村民 南相馬市飯館同窓会

南相馬市などに避難中の飯館村民の方向けのイベントで、「小さなお茶会」と称して毎月開催している。南相馬市飯館同窓会という組織の集会で、Café de FUKUSHIMA が運営を引き受けている。通算28回目。会場は南相馬市の施設石神生涯学習センターの大ホール。

2021年2月1日付の飯館村発表によれば、村民の避難状況は以下のとおりである。

県外避難者が114世帯196人。県内避難者が1,363世帯3,548人。避難者合計は1,477世帯3,744人。村内居住者は769世帯1,482名である。避難者の内、南相馬市には325人、相馬市に146人が住んでいる。事故前の村人口は6,501人であり、これと比較すると村民の58%が今も避難中である。原発被災各地の避難者数については、具体的な問題が挙がっているので、別に項目を立てて現状を記したい。

支援の結果

・支援者を除く参加者32名(内男性8名) 総参加者34名

- ・支援者は、石川千鶴子・石川和宏
- ・提供したのは、腹話術・誕生会・ビンゴゲーム・ラジオ体操・体調維持の飲み物・カラオケ(ピアノ生伴奏付き)、手作りのケーキとクッキー・菓子(激励カード付き)・果物(持ち帰り)、季節の和菓子(これも持ち帰り)。
- ・先月アンケートで「コロナで毎日の生活がどう変わりましたか？」をおたずねし、皆さんの回答を今回披露した。相互交流に役立つことを願ってのこと。
- ・「地震で食器が壊れた」と事前に聞いていたので、取り敢えず食器を集め、希望者に差し上げた。「茶碗が壊れた方はおられますか？」とおたずねしたところ、10人ほどが手を上げられた。持参した品は全て引き取られた。皆さん喜んで持ち帰られました。横浜のご近所が提供してくださったものと、サマリタンハウスの在庫が役に立った。

皆さんの声(原発後10年経った今の思いは?)

- ・事故のあとは何もかも夢中で過ごしたような気がする。
- ・長い避難生活本当に困りました。
- ・原発がなかったらと思い、悔しいです。
- ・人生大きく狂った。残念です。
- ・原発が憎い。前の生活に戻してほしい。
- ・でもどうにもならない。今は諦めています。
- ・先祖代々努力して築いた土地及び建物を放棄するのは残念でならない。
- ・帰りたいけど帰れないのが悔しいです。
- ・生まれも育ちも飯館で今は兄弟も離れ離れ。寂しさが募るだけです。
- ・色々避難してきてやっと8年目で落ち着いた。10年目で落ち着くと思ったらコロナにじゃまされて生活はこんなんです。
- ・とても残念です。元に戻る事は出来ないと思います。
- ・残念です。ふるさと思い出す。
- ・原町に行ったけれど、やっぱり飯館は思います。
- ・友達がいないのでさみしいです。
- ・何とも言えない。
- ・残念な、何かやり残したような気持ち。
- ・友人出来ず、コミュニケーション取れず。
- ・心のよりどころのない気持ちが大きかった。
- ・さみしいです。
- ・早いものですね10年もたってしまったとは。何もできませんでした。元に戻してもらいたい気持ちです。
- ・生活が大きく狂った。
- ・人生が切断された気持ちです。今なんとか前に進む事が出来るかな？
- ・とても長い10年間だと思っていたのですが、いざ10年過ぎてみるとあっという間です。
- ・長いようで短かった。
- ・過去のことはあまり悲観しないで生きたいと思うようになった。



会場の大ホール(大きくて寒い)



- ・また戻りたいけど戻れない。
- ・とてもさびしいですが、どうしようもない事ですね。
- ・あつというまに過ぎてしまった。
- ・あまりにも早く過ぎてしまった。原発 10 年震災 10 年あつという間の 10 年でした。
- ・原発事故後南相馬で暮らしていますが、まだまだ馴染めない。
- ・この思いは口には出せない事もあります。



ラジオ体操



【3】次回訪問先打合せと物資の支援

18 日(木)は、3月開催予定先との打合せと支援物資お届けに充て、4ヶ所訪問した。

聖愛こども園には手編みのクッションをお届けした。先生方には毛糸の靴下カバーをお渡しした。共に「温もり届け隊(岩見沢市)」から頂いたもの。先生方は、病気になれば保育に支障が出るエッセンシャルワーカーである。

北原復興住宅・大町災害公営住宅・南相馬市萱浜地区(和み会)の皆さんには、近況をお聞きすると共に次回開催の相談をし、食料などをお渡しした。



聖愛こども園の元気な園児たちと

【4】3. 11とコロナと今回の地震

今回の地震などについて、皆さんに伺ったこと

- ・3.11 の記憶がフラッシュバックしてとても怖かった。
- ・立っていられなかった。直ぐ着替えをし、いつでも避難できるようにし夜を開かした。3.11 の経験
- ・10 年経ってまた食器が壊れ、気力をなくした。
- ・小高の親族宅は、瓦が落ちた。車を軒下に止めていたが、窓は前も横も落ちる瓦で割れてしまった。
- ・津波で流された家を新築した方でも、瓦は落ちた。
- ・津波の時に避難させてもらった家が地震で壊れ、助けに行った。
- ・今までなんともなかった人が、コロナ自粛で認知症になった。日に数度も尋ねてくる。
- ・役場からコロナが収束したら集会を再開してくれと依頼された。認知症の急増対策。

サマリタンハウスの被害と支援の支障

山元町は震度6弱でした。サマリタンハウスは、家の中にいろいろなものが転がっていました。掛け時計が落ちて粉々になりました。食器は、戸棚の中で倒れたり、棚の扉の隙間から落ちたりです。外では、敷地内にある電柱が傾きました。被害はその程度で済みました。

水道は2日前に復旧しており、高速道路も通れなかったのは初日のみでしたが、復旧後走行すると、橋の両端で車がジャンプし、ドライブレコーダーの緊急録画が始まりました。地震で橋の中央部が沈下し、両端が浮くのだそうです。3.11 後の3月 26 日に檜葉町・広野町・いわき市で被災者の皆さんに水や食料をお届けしたのですが、その時と同じ現象でした。

往路は、相馬インターで降りられ、その先は新地町を通りサマリタンハウスのある山元町まで一般道でした。新地町は、震度 6 強でしたが、たくさんの家の屋根がブルーシートで覆われていました。15 日(月)は、東北地方を爆弾低気圧が通過し、暴風雨でした。ブルーシートが飛ばされてしまった家も多く見かけました。近所の方から新地町の親戚宅の様子を伺いました。家の中は「地震で飛散したガラスや家具が、雨漏りで水浸し状態」。片付けの手伝いに行ったが、「もう使える家ではない」とのことでした。親戚宅は、3.11 の津波で住めなくなり仮設住宅が出来るまで身を寄せた家だそうです。



常磐道崩落現場 奥が仙台方面



常磐道崩落現場 奥がいわき方面

自然災害と原発事故

福島県の方々にとっては地震＋爆弾台風＋原発事故(の爪痕)の重畳となった。

私の住んでいる横浜市も、今後 30 年以内に震度 6 弱以上の大きな地震が発生する確率は、「82%」(政府・地震調査委員会昨年 6 月公表「全国地震動予測地図」)。相模トラフ地震(過去に関東大震災)、首都圏直下型地震と合わせて三つの巨大地震に狙われていて、市の被害予測では、避難者数は約 57 万人。火災による建物焼失棟数は約 8 万棟。

地震と津波は、予測可能であったとしても不可避で、災害列島日本の宿命である。出来ることは減災しかない。しかし、原発事故は回避可能である。自然災害と原発事故の重畳は何としても避けなければならない。今回の経験でそのような思いを強くした。多くの福島県民の思いもそうであろう。

関西学院大学災害復興制度研究所の調査(昨年 11 月)がある。避難者を対象に、調査票を郵送して実施。694 人が回答した。これによれば、避難者で「震災前の住所に戻っていない理由」に「廃炉作業中の原発で何が起きるか分からない」を挙げた方が 42% あった。悲惨な事故を経験し、今も避難を余儀なくされている人たちの「恐れ」が、杞憂ではないことを今回の「震度 6」で起きたことが如実に示している。

【5】まとめ

今回は災害 3 点セット、原発事故・コロナ禍・地震の中での支援になりました。

今思うと、今回の被災者支援は、状況が最悪でした。被災者の地震被害の状況はもとより、常磐道の崩落、山元町の断水などあり、果たしてたどり着けるかサマリタンハウスで生活が成り立つか、心配すればきりがありませんでした。支援を支援して下さる皆様には(家族も含めて)ご心配をおかけしました。

行く行かないで躊躇することは全くなかったのですが、結果から見れば何事も起こらず支援を行うことができました。「大変な時によく来てくださった」という皆さんの声にとっても励まされました。

今回当地の様子や気づいたことなど、出来る限りこの報告に込めました。福島県原発被災者のこと、災害のこと、原発のことなどを考える際の参考にさせていただければと思います。またこの報告が、色々ご協力いただいた方々へのお礼・お返しの一端にでもなれば幸いです。

原発被災各地の避難者数について

福島県の避難者集計に3万人以上の差 県と市町村、手法ばらばら 河北新報 2021年1月31日

(抜粋)福島第1原発事故の避難者数を巡り、福島県が現在約3万6千人としているのに対し、県内の各自治体が避難者とする総数は少なくとも6万7千人超に上り、3万人以上の開きがあることが30日、共同通信の取材で分かった。

支援団体などは適切な支援が難しい一因と指摘する。

共同通信は昨年12月～今年1月、避難者の多い福島県浜通りと中通りの42市町村を取材した。一部自治体は避難者数を明らかにしていないため、県公表分との実際の差はより大きいとみられる。

また福島県内に避難した人数で比べると、県公表分が約7200人だったのに対し、市町村合計は4万2千人を超えた。福島県は県内避難者とする扱いとして、仮設住宅を出て災害公営住宅に入った人などは除外するようにしている。市町村の集計や考えはさまざま。浪江町は、震災時に住民登録していた人を今も「避難者」とする。災害公営住宅などに移っても「元の場所に戻れたわけではなく、避難が継続」との判断だ。これに対し、富岡、大熊両町などは住民票を移した時点で避難者数からは外すようにしている。復興庁は総務省のシステムを通じ避難者数を公表している。システムは避難者が任意で避難を届ける仕組みで、実態を反映していないとされる。(引用終わり)

福島県の避難者の集計方法の違い

国	復興庁	戻る意思があれば避難者と定義。総務省が稼働させる全国避難者情報システムで数を集計
県	福島県 県外避難	国の全国避難者情報システムを通じ数を把握
	福島県 県内避難	仮設住宅や親戚、知人宅に仮住まい状態だと避難者。災害公営住宅などへの入居者は含まず
市町村の例	大熊町 富岡町 飯館村	住民票移転で避難終了
	浪江町	震災時に住民登録していた人は今も避難者。災害公営住宅などに移っても避難継続と扱う
	田村市	本人が「避難中」と意思表示している人は避難者
	福島市 郡山市	国のシステムで把握

東日本大震災による避難者数(ほぼ原発避難者数)は、復興庁が毎月発表している。最新(1月29日付)では、全国の避難者数約42,000人(全国47都道府県・932市区町村)になっている。自県外への避難者数は、福島県から28,959人、宮城県から3,724人、岩手県から925人。住民票が元のままなど「前の住居に戻る意思を有するもの」のみが調査対象であり、それ以外はカウントから除外されている。福島県の発表も、復興庁からのデータに基づいているので、同じ数である。

避難者に関する新聞やテレビの報道では、ほとんど全てこの復興庁の数字が使われている。これ以外に確たる統計(数字)は存在しないのでやむを得ないのだが、被災者の立場に立てば、住民票を移したからといって「もう避難者ではない」と言われるのも納得できないのではないかと。一方、住民票を移さずに避難する方は、例えば新型コロナのワクチン接種は住民票のある所で受けることになっているので、元の住所に出向かなければならない。どちらにしても大変なこと。

Café de FUKUSHIMAの働きは、避難者支援であるが、より広範な被災者に「同情し共生する」。国などの定義に縛られない。仮設住宅時代は被災者に出会うのが難しくなかった。その後徐々に被災者の住まいが分散し、出会うのは簡単でなくなった。めげずにこれからも被災者との出会いを求めて働きを続けたい。

“ふるさと”を歌う

津波や原発事故で被災した方々の所では、「ふるさと」(唱歌)を歌わないほうがいい。支援活動が始まって間もない頃、誰からともなく言われた言葉です。その助言は当たっていると思い、以来一度も歌っていませんでした。けれども、先月飯館村の方々集まりの時に、ある方が「“ふるさと”をみんなで歌いたい」という

言葉を書き残していかれたのです。

驚きと感動でしばらく考え込みました。一人の方の願いではあるけれど、歌ってみようと思いました。コロナで、集まりに使用できる場所は、以前の和室の大広間から、体育館のように広いホールへと変更されました。密を避けるためですが、何か寒々と殺風景で残念な思いがありました。でも、そこにはピアノがあります。カラオケの機材も持参していますが、この歌はあのピアノの伴奏で歌ってみたい、と思いつきました。そして簡単な伴奏の練習をして今回出掛けました。

やはり歌いたくない、という方がおられたら止めようと思って臨みましたが、そのような反応はなく、3番までみんなで歌いました。ピアノを弾きながら男性の大きな声が聞こえてきました。たとえ村へ帰るのを諦めても、愛してやまない飯舘村なのだろうか、そんなことを考えながら弾き終えました。しかしやはりこの歌は残酷です。「山は青きふるさと」(山林は除染対象外のため、今も山には入れない)「水は清きふるさと」(村内の溪流釣りは出来ない)。

お金では買い戻せないものを失ってしまった悲しみや無念は、私には十分にはわからないと思います。
(この項石川千鶴子)

【5】3月の予定 3月15日～3月19日(2021年第3次)

復興住宅2ヶ所・被災者避難先住民組織1ヶ所

◇3月15日(月) 横浜→サマリタンハウス

◇3月16日(火) 北原復興住宅(11) 浪江町民ほか:南相馬市原町区

◇3月17日(水) 大町災害公営住宅(きらきらサロン)(8) 南相馬市民:南相馬市原町区

◇3月18日(木) 飯舘同窓会(29) 飯舘村民 南相馬市 石神生涯学習センター

◇3月19日(金) サマリタンハウス→横浜